

2. 議事

(1) 金剛地区再生指針推進の取組について (平成30年度)

ウォーキングマップの活用

まちづくり会議(公園部会)において、公園の利活用促進についての議論が進む。

・緑のネットワークづくり

→中央公園、寺池公園だけでなく、金剛地区内に点在する各公園を、ネットワーク化することで、利活用を促す。

・「あるこうかい富田林」とのつながり
→地区内を実際に歩いたルート図を提供していただく。

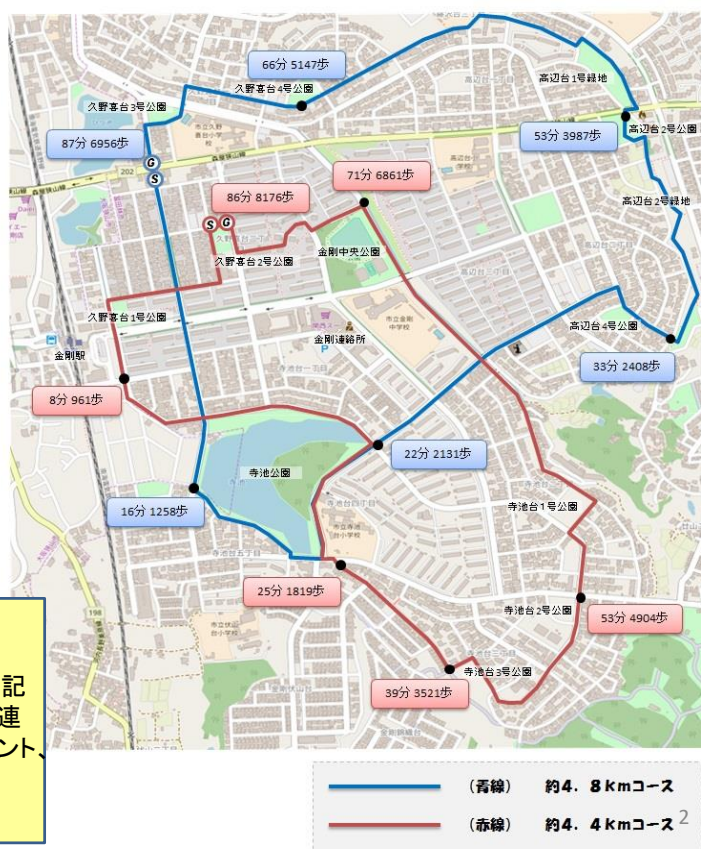
・提供いただいたルート図を基に、まちづくり会議メンバーが独自にまち歩きし、**たたき台となる地図を作成**。

※現状、この地図の活用ができていない・・・

- ①地図磨き上げ・・・魅力、写真、危険箇所、特徴等、様々な情報の追記
- ②イベントの開催・・・大学や体育指導者等と連携した、ウォーキングイベント、ウォークラリー等

活用の検討が必要

●金剛地区まちづくり会議ニュースレター第3号
まちづくり会議メンバーによるコラムでのウォーキングマップ



- ・地域の居場所となっていた喫茶店(久野喜台)が閉店により空き店舗となる。
→オーナーが地域の方に貸しスペースとして店舗を開放。
→スペースのレンタル料は1時間500円+空調代等。
→地域の住民が、コーディネーター役を担う。※H30年夏頃～

- ・現在、地域の担い手により手作りのカフェが開催されている。
→毎月1回、11日に定期開催。 ※H31年4月まで予定。
→居場所づくりやコミュニティの拠点になっている。

- ・開催時間帯は、オープンスペースとして、それぞれ趣味の活動や勉強会等での使用も可。
- ・津軽三味線の稽古やそば打ち体験会にも使われている。



《オーナーの意向》
商売ではなく、地域の人による、地域のための活用を！

今後の活用の可能性は？
どのような活用ができるか？

公共施設とは違った、
活用の検討が可能

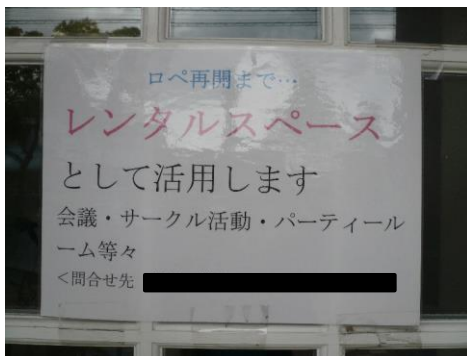
コーディネーター(Nさん)より

- ・まずは、周辺の歩いて来られる範囲(特に久野喜台)の人たちに、交流会やランチ会など、気軽集まる場として使ってもらいたい。
- ・一方、自分たちで、集まる場をつくるのではなく、定期的に提供される居場所として、喫茶店的な運営を求める声も多い。

担い手の発掘が課題

オーナーの協力を得て、地域の皆さんにより、居場所づくりや地域活動の拠点として活用されることを期待。

3



4

- ・試験開催(2回)を経て、平成30年4月～、毎月1回、第4土曜日に定期開催(全14回開催)。
- ・今後の継続開催に向けて、あり方等を検討するため、準備会議を開催。

【準備会議の開催(H31.2.21)】 ※参加人数8人

《現状・課題》

- ・集客は、野菜頼みの状況、野菜以外の魅力が少ない。 ・駐車場がない。
- ・野菜販売の採算は合っていない。 ・開催当初から、来場者数は右肩下がり。

《主な意見》

- (野菜販売) ・月一回のイベントとして、楽しんで参加しているが、人員等の体制を整えるのが大変であり、いつまでもこの状態で続けることは困難。小規模で出店する方法も検討したい。
- ・マルシェ(野菜販売)は、何らかの地区活性化の効果をもたらしたか？
- (利用者) ・新鮮な野菜や珍しい野菜を毎月楽しみにしており、永く続くことを期待。
- ・マルシェ以外でも、富田林産の野菜が購入できる方法を知りたい。
- (主催者) ・居場所づくり、賑わいづくり、商店街の活性化、市の東西交流・連携、市の農業のPR等、様々課題解決につながる大切な取組。
- ・地区活性化に資する取組として、可能な限り継続したい。

マルシェ自体は、来年度も一年間継続する

5

■今後の継続開催に向けて

野菜の出店

- ・5月までは、これまで通りの体制で実施。
- ・6月以降、野菜の販売は縮小する可能性あり。

野菜頼みではない運営の検討が必要

魅力的な出店・催しとなるよう検討する

- フリーマーケットなど、地域の人参加型イベントとして、若者等の参加を増やす。
- 農家の負担を軽減して野菜販売をしていただけの方法を検討。



販売ボランティアの募集など

- ・売り上げの数パーセント、若しくは野菜の現物支給による報酬支払も検討！

利用者ニーズへの対応

マルシェ以外でも定期的に野菜を買い求めたいファンがおられる

→マルシェの開催日、時間帯に都合が合わない人や、月一回の販売では物足りない人への対応。

- ①直売所やネット販売等、マルシェ以外でも購入できる場所をPR。
- ②新たな取組として、商店会と農業を創造する会の協力により、無人のワゴン販売「きまぐれマルシェ」を試験的に実施。



6

【第3～5回金剛地区まちづくり会議(全体会)を開催】

前回の協議会開催以降、金剛地区まちづくり会議(全体会)を3回開催しました。

第3回



各部会のこれまでの取り組みについての部会メンバーによる報告と金剛地区まちづくり会議の今後についての意見交換を行いました。

第4回



金剛地区活性化にかかる取り組み等の情報共有と金剛地区まちづくり会議の今後についての意見交換を行いました。

第5回



富田林市内の市民公益活動や子ども食堂にかかる取り組み等の情報共有と金剛地区まちづくり会議初の懇親会を開催しました。

(第3回)

まちづくり会議の方向性についての意見が複数出る。



(第4回)

まちづくり会議の方向性について再整理。

7

【第3回まちづくり会議(全体会)での意見】 ※H30.11.3開催。

- ・まちづくり会議として、活動の方向性や目的が不明瞭。
→そのため、参加者も減少傾向にある。
- ・指針推進協議会でどのような議論がされているのか知りたい。
→URや南海等の事業者は、どのような意見を持っているのか・・・？
- ・まちづくり会議での議論が、地区活性化にどのような形で反映しているか？
→ここでの議論と市の施策が相反しているのでは・・・？
- ・地区再生・活性化に係る進捗、これまでの取組・成果等を、資料として整理してほしい。
- ・誰もが参加しやすいよう、会議時間の厳守は重要。

活動、目的、成果が、
漠然としている

まちづくり会議のあり方の再整理が必要。

8

【第4回まちづくり会議(全体会)で会議運営の方向性等を再確認】

※H31.1.19開催。

①会議運営の大きな方向性(目的)?



地区を再生・活性化すること

指針に基づく活性化を進める。

②地区の再生・活性化とは?



そのテーマ、目標、達成の指標、方法、手法等は様々であり、一言では表せない...

指針にも様々な方向性や取組が示されている。

③まちづくり会議(全体会)が担う取組は?



テーマや目標を持った具体的な取組は、各部会(プロジェクト)が担う(コーディネートする)ものとする。

会の大きな目的は「地区の再生・活性化」であるが、全員が足並みをそろえて一つのことに取り組むことは困難...

次項へ

9

【まちづくり会議(全体会)の役割】

① 金剛地区まちづくり会議(全体会)は、様々な人が集い、つながる場とする。



参加者の意見をもとに、ワークショップ、勉強会、情報交換、意見交換等を行う。

② 全体会として、そのような場を作ることで、個別のプロジェクトが生まれる。



現状の4部会にこだわらず、新たな部会(プロジェクト)が生まれることを期待。

③ 各プロジェクトは、それぞれのテーマ・目標を持った活動を進める(コーディネートする)。



④ 各プロジェクトの活動等は、定期的に全体会で情報共有・参加協力の呼びかけをする。



⑤ 地区内外の様々な人や活動と連携し、活動の輪が広がる。

まちづくり会議は地域のつながりやプロジェクトが生まれる起点とする！

【課題】

- ・現在、会議運営や会のコーディネートは、行政の支援により行われている(概ね5年間の予定)。
- ・いずれは、会議参加者(地域住民)により、行われることが望ましい。
- ・コアメンバーの発掘や活動資金の捻出(補助金)等、運営・資金面での自立を促す必要がある。

参加者募集の方針

地区内の町会（自治会）等とのつながりを大切にしながら、様々な人が様々な立場で参加できる体制づくりを進める。

H30年度～
の基本方針

- ①町会（自治会）等を通じ、まちづくりに興味のある参加者を募集。
- ②地区内外の団体・活動との連携や取組を進める中で、まちづくり会議へ巻き込む。
→イベント開催等をきっかけとして新たなメンバーの参加を募る。
- ③金剛地区まちづくりサポーター育成講座（H30年度開催、全4回）を通じ、
「まちづくり会議」へマッチング。

FBやニュースレターなどでも
メンバー募集のPRを行う。

一度会議に参加して以降、来なくなる人も多い。

新たな参加者を金剛地区まちづくり会議メンバーとして定着させるためには？